

# 「地球温暖化問題への農学の挑戦」

- 日 時：平成20年10月11日（土）午前10時より（午前9時30分開場）
- 会 場：東京大学弥生講堂（地下鉄 南北線「東大前」駅下車徒歩1分、千代田線「根津」駅下車徒歩8分）
- 主な対象：学生・院生、若手研究者（一般公開）
- 参加費：無料
- 講演要旨：別売
- 内 容：

2007年2月、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）は、その第4次評価報告書の中で「温暖化はすでに起こっており、その原因は人間活動による温室効果ガスの増加である」とほぼ断定した。今後、人類はこれまで経験したことのない温暖化時代に入ると予測され、その対応策が求められている。

農林水産業は食料生産を担う重要な産業であることは論を待たないが、一方で土地利用の変化、管理の集約、資源の多投入化によって温室効果ガス排出を増加させてきた側面も持っている。今後、人類が持続可能な発展を目指すには、農学領域においても温室効果ガス排出量を削減することが重要である。また、食料生産システムを温暖化する気候に適応させること、さらには代替燃料としての需要が高まっているバイオマスエネルギーの増産に伴う種々の問題なども発生している。

本シンポジウムでは、地球温暖化に関わる多様なトピックスを紹介し、農学分野からはどのような対応が可能かについての議論を深めたい。

## ■講演題目：

### 第1部 基本講演

10：10 地球温暖化への対処：緩和と適応（国立環境研究所 西岡秀三）

### 第2部 地球温暖化による農林水産業への影響

10：40 水稻を中心とした作物栽培への影響と適応策（農業環境技術研究所 長谷川利拡）

11：10 地球温暖化が水産資源に与える影響（北海道大学 桜井泰憲）

11：40 農業におけるLCA(Life Cycle Assessment)（茨城大学 小林 久）

13：00 バイオ燃料生産と国際食糧需給問題（九州大学 伊東正一）

13：30 バイオ燃料と食糧の競合と農業問題（東京大学 五十嵐泰夫）

### 第3部 農業分野での温室効果ガス削減への取り組み

14：00 農耕地からの温室効果ガス排出削減（農業環境技術研究所 八木一行）

14：30 わが国での反すう家畜の消化管内発酵に由来するメタンについて

（農業・食品産業技術研究機構 永西 修）

15：15 森林分野の温暖化緩和策（森林総合研究所 松本光朗）

15：45 二酸化炭素貯留源としての木材の役割と持続的・循環的な国産材利用

（京都大学 川井秀一）